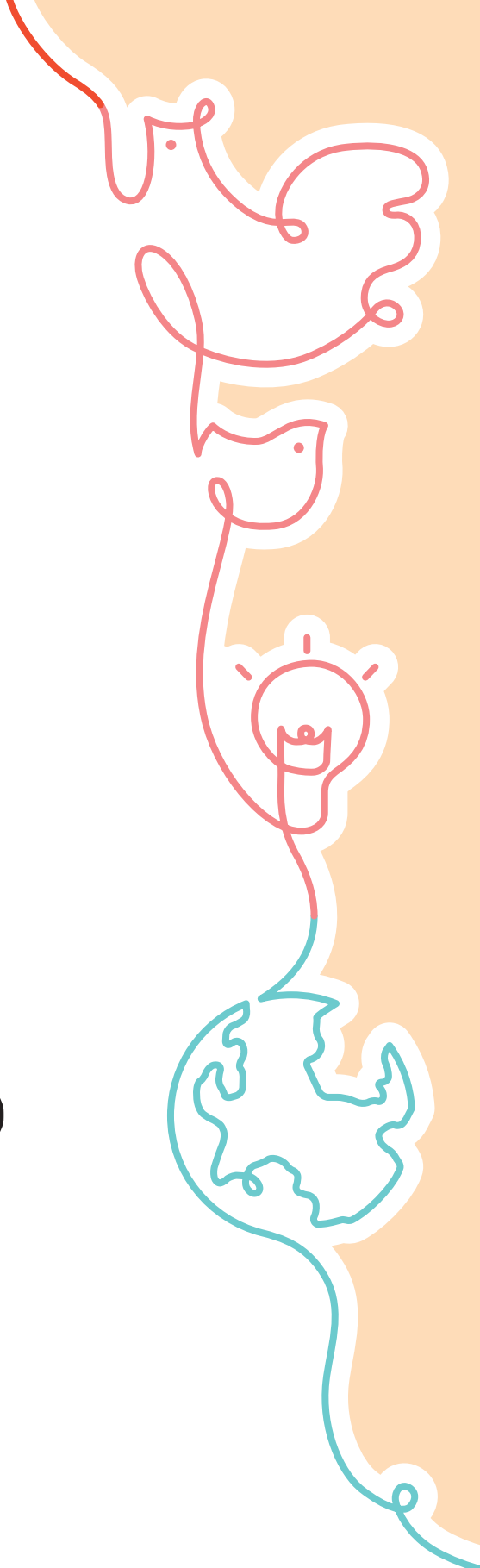
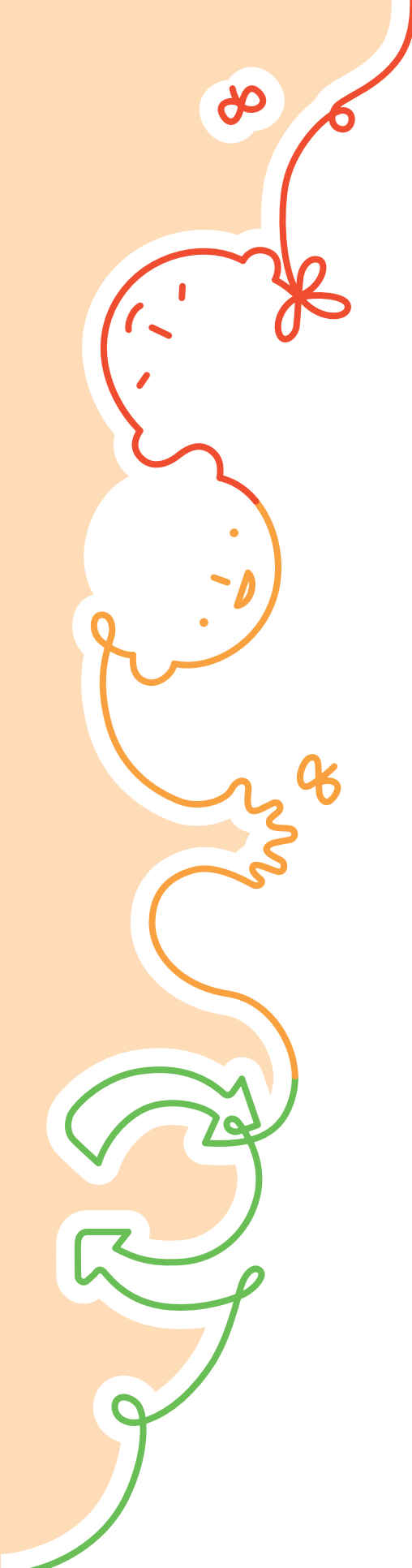




生活クラブ 2030 行動宣言

サステナビリティ
レポート

2024年度実績

サステイナブルなひと、
生活クラブ

生活クラブはSDGsの理念に先んじた、かつとどまらない活動を実行します。

「生活クラブ2030行動宣言」は11の重要目標を掲げ、サステナブルな未来の実現をめざしています。本レポートでは、それぞれの目標達成に向けてどんな活動がすすめられているのか、2024年度の到達点とともに報告します。

Contents

重要目標1 …… 4



食料主権の考え方を基軸とした、国内生産の追求と、公正な調達を行います。

重要目標2 …… 7



素材本来の味、食材にまつわる知恵や文化を大切にして、健康で豊かな食の実現をはかります。

重要目標3 …… 9



地球の生態系を維持するため、海や陸の環境保全と気候危機対策に取り組みます。

重要目標4 …… 11



社会の存続をおびやかす危機への対策をすすめ、暮らしと未来を守ります。

重要目標5 …… 12



原発のない社会をめざし、再生可能エネルギーの生産と普及に取り組みます。

重要目標6 …… 14



誰もが個性を活かしながら、安心して生活を営める地域と社会をつくります。

重要目標7 …… 15



貧困と孤立を見逃さず、自立に向けて寄り添い、支え合い、多様な居場所と働き方をつくります。

重要目標8 …… 16



非戦と共生の立場を貫き、平和で公正な社会をめざします。

重要目標9 …… 17



ジェンダー平等と多様な働き方を実現します。

重要目標10 …… 18



他団体や行政と連携し、新たな環境保全活動に取り組みます。

重要目標11 …… 19



情報開示と自主管理を基本とし、自ら考え、決め、実行します。

数字でみる動向と推移 …… 20

2024年度 生活クラブの活動を振り返る …… 22

【掲載内容について】

本レポートに掲載している活動やデータは、主に2024年度（2024年4月～2025年3月）の実績に基づき作成しています。それ以外の情報は、それぞれの項目内に記載しています。



Topics of 2024

重要目標1 組合員が農作業に携わり消費材をつくる「計画的労働参加」が30周年



生活クラブの「計画的労働参加」は、組合員がいち労働力として有償で農作業に参加、またはその必要経費を価格に含んだ消費材を購入することで、消費材の生産を続けていくしくみです。「信州トマトジュース」はこの計画的労働参加でつくられ、2024年に活動が30周年を迎えました。

6
ページへ

重要目標3 びんを再使用し、環境への負荷を減らす「グリーンシステム」30周年



生活クラブでは、環境への負荷を減らす取組み「グリーンシステム」を1994年から始め、規格を統一したびんを回収後、洗って消費材に再使用する「リユース」をすすめています。30周年の節目に、組合員がリユースびんを使う消費材の生産者の工場を見学し理解を深めました。

9
ページへ

重要目標4 庄内豪雨災害で被災した提携産地で組合員たちが支援活動に参加



提携産地である山形県庄内地域で、2024年7月25～26日に豪雨災害が発生しました。生活クラブでは被災直後から飲料水などの支援物資を送送。8月から10月半ばまで組合員、職員など延べ256人がボランティアとして現地に入り、災害支援活動を行ないました。

11
ページへ

生活クラブ行動年表

- | | |
|--------------|---|
| 1965
(年度) | 「生活クラブ」結成 |
| 1977 | 合成洗剤の取り扱いをやめ、せっけん利用運動を本格化 |
| 1986 | チヨロノービリ原発事故を受け、放射能の自主基準を設定 |
| 1990 | 生活クラブ連合会設立総会。協同組合運動が食の自給力向上、持続可能な循環型社会づくりのモデルとなるよう実践すると定める |
| 1994 | びんを再使用する「グリーンシステム」スタート |
| 1997 | 「自主管理監査制度」スタート
「安全・健康・環境」生活クラブ原則を制定。次世代を見据え、生産から廃棄に至るすべての過程で責任をもつとする |
| 2015 | 生活宣言（ブランド・ステイトメント）と10のThink&Act決定 |
| 2016 | 2014年に設立した㈱生活クラブエナジーを通じて再生可能エネルギーによる電気の共同購入スタート
「生活クラブの福祉・たすけあい8原則」を決定 |
| 2018 | 「生活クラブの消費材10原則」を決定。自主管理監査制度を「持続可能な生産と消費」推進制度へリニューアル |
| 2020 | 「生活クラブ2030行動宣言」を決議
「気候危機宣言」を発表 |
| 2022 | 「生活クラブ2030行動宣言」の重要目標を11に増やし決議
「つながるローカルSDGs」をテーマにしたしくみづくりをスタート
「エネルギー事業連合」を設立 |
| 2023 | 庄内地域の「ローカルSDGs」の取組みが第10回環境省グッドライフアワードで環境大臣賞 優秀賞を受賞 |

「生活クラブ2030行動宣言」
について詳しくはこちら ▶



食料主権の考え方を基軸とした、国内生産の追求と、公正な調達を行ないます。

持続可能な地域づくりをともにすすめる

生産者とともに国内自給力アップをめざす

家庭で消費する基本の食材であり、さまざまな加工品の原料にもなる一次産品*をつくり、食べ続けていけるように、提携生産者とともに国内自給力のアップをめざしています。「共同開発米*」をつくる山形、長野、栃木、宮城の4つの主産地を中心に各産地と地域を含めたつながりを持ち、地域の活性化など食だけにとどまらないチャレンジもしています。

4産地
合計

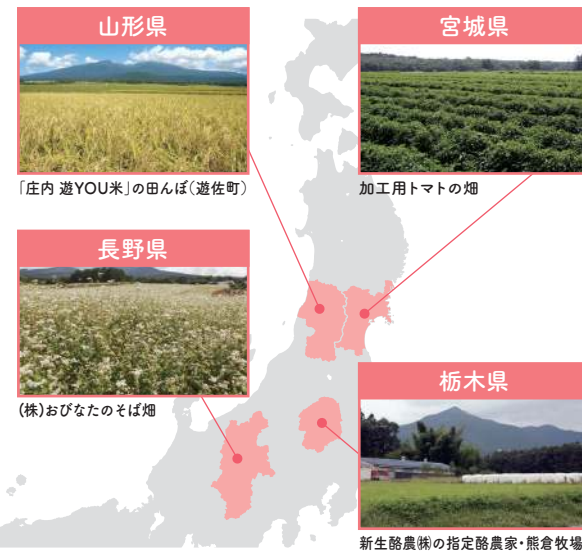
2024年度実績

主食用米 重量

7,142t

2019年度（基準年） 主食用米 重量

7,516t



予約でサステイナブルな生産と消費を応援

生活クラブの注文方法の一つに、組合員が予約した消費材*を定期的に届けられる「よやくらぶ」があります。毎週の注文をサポートする便利なしくみです。米、牛乳、鶏卵、青果物の「ビジョンフード*よやくらぶ」は、予約することで組合員の継続的な利用が見込め、生産者が生産計画を立てやすくなることから、持続的な生産と消費を支える力になっています。

■ビジョンフードよやくらぶの予約率*

2024年度実績

米 27.9%

鶏卵 42.3%

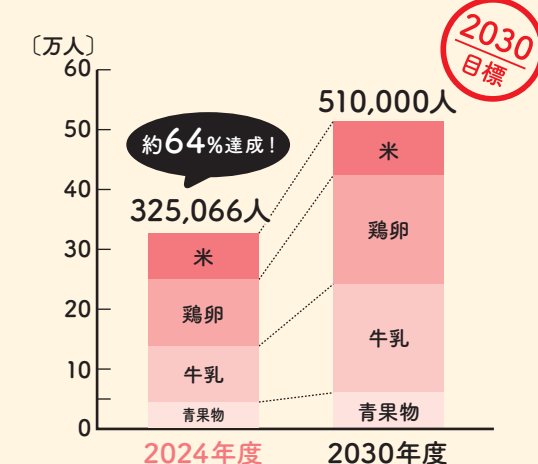
牛乳 35.6%

青果物 5.9%
+2.5% (バナナ)
+7.6% (りんご)

※予約できる消費材は地域によって異なります。青果物の予約は2022年度から8単協、7地域でスタートしました。
※2024年度は青果物の予約に、新たにりんごが加わりました。

2024年度の実績と2030年目標

■お米・鶏卵・牛乳・青果物を予約している組合員の人数



[内訳]2024年度／米:77,379人、鶏卵:111,254人、牛乳:93,612人、青果物15,589+6,699(バナナ)人+20,533(りんご)人 2030年度目標／米:90,000人、鶏卵:180,000人、牛乳:180,000人、青果物60,000人

命の産業である第一次産業において、種に至るまでの国内自給を追求し、生産情報の開示をすすめます。また、国内外を問わず、生産に従事する人々の人権に配慮し、合意に基づく調達を行ないます。



種からの生産と出荷、国内自給を追求

日本の食料自給率と生活クラブの国産原料の取組みがわかるプロジェクト「まかない亭」のWEBサイトはこちらから



国内で自給できる種の維持と開発

鶏肉・鶏卵の「国産鶏種」の生産と拡大に取り組み、輸入に頼らない種の自給にチャレンジしています。国内で食べられている鶏や卵を産む鶏のほとんどは、親鶏を外国から輸入して育てたもの。国内で種の自給が可能になると、日本の気候風土にあった形質や国内の嗜好にあったものに育種改良しやすくなります。



2024年度の実績と2030年目標

■国内で育種し、改良した「国産鶏種」の飼育数



さらに 畜産飼料も国産に

国内で飼育されている豚や鶏、牛などの飼料の7割以上を、輸入に頼っているのが現状です。生活クラブでは飼料も国産化をめざし、飼料用米の給餌拡大や、子実とうもろこしなど飼料用作物の拡大にも取り組んでいます。



2021年度の実績で、当初に2030年目標としていた飼料の自給率35%（重量ベース）をクリアしました。
今後目標の引き上げについて検討します。

* 消費材

生活クラブでは、取り扱う食品や生活用品を利潤追求が目的の「商品」ではなく、使う人の立場にたった材であるという思いを込めて「消費材」と呼んでいます。

* ビジョンフード

毎日の基本の食である牛乳、鶏卵、米、肉類などの一次産品を手に入れ続けるには、生産から流通・消費にいたるまで「ビジョン（展望）」を持つことが必要です。生活クラブではこれらの品目を「ビジョンフード」と呼び、共同購入を通じて生産者との提携関係を強め、未来の食の安心の実現をめざしています。

* 一次産品

青果物やお米、牛乳、鶏卵、肉類など、生活クラブのお米は、組合員と生産者が品種や農法を話しあい「共同開発」しています。組合員が食べたい、生産者がつくりたいお米のサステイナブルな生産が目標です。

* 共同開発米

生活クラブのお米は、組合員と生産者が品種や農法を話しあい「共同開発」しています。組合員が食べたい、生産者がつくりたいお米のサステイナブルな生産が目標です。

重要目標 1 食料主権の考え方を基軸とした、国内生産の追求と、公正な調達を行ないます。

互いを理解する機会をつくり提携関係を深める

組合員と提携生産者が互いの声を聞き、現場を知ることが目的に、さまざまな交流の機会をつくっています。組合員が産地を訪れ消費材の生産について学ぶ「生産者交流会」をはじめ、生産者を各地の生活クラブに迎える「消費地交流会」や「学習会」も開催。加工用トマトの定植や収穫にも組合員が参加しています。また、オンラインも活用し交流の幅を広げています。

2024年度の実績と2030年目標

生産者との交流会や産地見学会などの参加人数

2024年度

159,933人/年

2030
目標

500,000人/年

海外の生産者との つながり

国内で生産が困難な食品は、海外から輸入しています。海外産品であっても、消費材としての扱いは国産と同じです。海を越えて顔の見える関係を築き、組合員と生産者が互いに豊かになる提携をめざしています。



「国産ブランドなたね油」にはオーストラリア産のNon-GMなたねが使われています。生産者の元を組合員が訪れて視察と交流を行ないました

生産から消費に至るまでの 情報を開示

取り扱っている農産物や畜産物について、「いつ・誰が・どこで・どのように」について確認できるように、情報を組合員に開示しています。

農産物や畜産物の生産計画・生産履歴の開示

100%

たとえばこんな取り組みもしています

- ・水産物を使った消費材の一部に「MSC認証[※]」の輸入原料を使用
- ・「洗濯用粒状せっけん」などの原料の脂肪酸の一部をパーム油由来から廃食用油由来のものに変更
- ・マーガリン類3品目と原材料に使用する加工食品28品目のパーム油を「RSPO[※]」に認証された原料に変更



(2024年度)
MSC認証の原料を使用した消費材の注文数量
125万5,049点



庄内
交流会

各地の組合員が庄内地方の産地を訪れる大交流会。2024年7月で51回目の開催。4日間で14か所を訪問し交流しました



消費地
交流会

生産者が組合員のもとを訪れ、学習会や料理講習会などを開催。消費者の声を直に聞き、消費材に活かす機会になっています



計画的
労働参加

トマトジュースの原料、加工用トマトの定植と収穫を組合員が担います。24年8月の収穫には組合員に加えて日大芸術学部の学生たちも参加

新たな 取り組み

食品ロスを 削減するために

生活クラブでは、消費材のこれまでの賞味期限を新たに見直しています。保存期間の長さによる食味や品質の変化を検査し、問題がないと確認できたものについては、賞味期限をさらに延長します。

賞味期限を延長した品目数

約43%達成!

累積品目数
2020～2024年度

257品目

2030
目標

600品目

重要目標

2

素材本来の味、食材にまつわる知恵や文化を大切にして、健康で豊かな食の実現をはかります。



必要のない添加物や薬剤の使用を限りなく削減し、健康を保つことに貢献する食材の使い方や摂り方などの情報を積極的に共有します。

化学合成農薬や抗菌性物質（抗生物質・合成抗菌剤）などの使用を削減

農薬をできる限り減らした野菜の取組み

生活クラブの野菜はすべて、「アースメイド野菜」と名づけています。生産者と一緒に土づくりからはじめ、「いつ・誰が・どこでどのように」をつかったか栽培履歴をすべて明らかにすることを基本としています。そのなかでも「あっぱれ育ち」、「はればれ育ち」の野菜は、化学合成農薬や化学肥料はできるだけ使わず、独自の基準のもと徹底した品質管理で届けています。



アースメイド野菜の
ロゴマーク

※「アースメイド野菜」は関西地方を除く生活クラブの青果物の規格です。関西地方の生活クラブでは、自主基準に沿った独自の規格で青果物の共同購入を行なっています。



あっぱれ育ち

栽培期間中、化学合成農薬と化学肥料を使用しないで育てました。

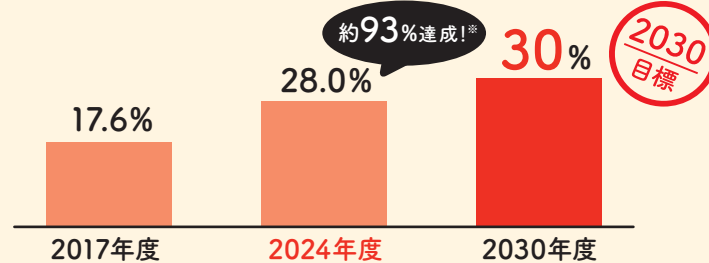


はればれ育ち

栽培期間中、化学合成農薬と化学肥料をできるだけ使わず育てました。

2024年度の実績と2030年目標

「あっぱれ育ち」「はればれ育ち」野菜の供給比率の推移



※目標の供給比率30%に対する達成度。

さらに

薬に頼らず健康第一に 牛・豚・鶏を育成

生活クラブが提携する畜産生産者は、牛や豚、鶏がのびのびとストレスなく過ごせる環境を整え、健康第一に育てています。そうすることで家畜が病気にかかりにくくなり、抗菌性物質に頼らない飼育が実現できています（病気の治療をのぞく）。



牛

3,109頭



豚

79,831頭



鶏(肉用)

1,825,158羽

※2024年度実績

* MSC認証

天然の水産物を対象とし、海洋管理協議会（Marine Stewardship Council）が管理している、水産資源と環境に配慮し、適切に管理された漁業で獲られた水産物の証。

* RSPO

Roundtable on Sustainable Palm Oil（「持続可能なパーム油のための円卓会議」）の略。持続可能なパーム油の生産と利用促進のために設立された国際的な非営利組織。

重要目標2 素材本来の味、食材にまつわる知恵や文化を大切にして、健康で豊かな食の実現をはかります。

素材のよさを活かし不要な食品添加物を使わない消費材づくり

必要のない食品添加物は不使用に

食品添加物に対する基本的な考え方は、「疑わしいものは使用しない」「不要なものは使用しない」「使用したものはすべて開示する」です。現在、日本で使用が認められている食品添加物は833品目。生活クラブではその約1/10のみを許容し、使用する用途も限定しています。

2024年度の実績と2030年目標

■自主基準に沿って、必要のない食品添加物を使わずにつくった消費材の累積数

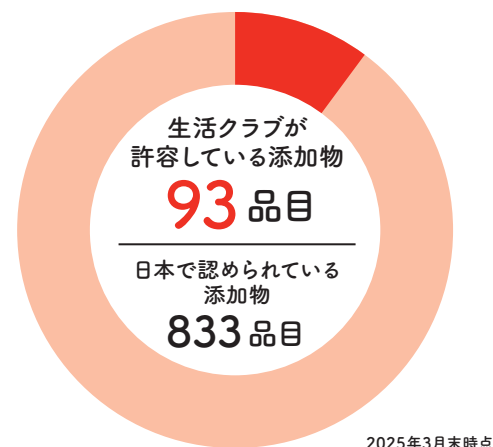
2024年度 **3,616**品目

約88%達成！

2030目標 **4,097**品目



■許容食品添加物



※日本で使用が認められている食品添加物には、「指定添加物」「既存添加物」「天然香料」「一般飲食物添加物」があります。上記の833品目と93品目（表示義務のない添加物及び粉ミルクの栄養素は除く）は、「指定添加物」「既存添加物」のことを指します。

ミールキットや誰もが食べやすい食品の開発

安全性に配慮した食品を使い、栄養バランスのとれた食べ方を組合員に提案しています。また、食材が持つ栄養を活かした消費材や、伝統的な製法や調理方法でつくった消費材の開発もすすめています。

バイオサポ*食材セット

消費材や国産野菜、提携生産者の調味料を使った、生活クラブのミールキット。



美食百彩*

ライフステージの変化に対応し、あらゆる世代の健康をサポートする消費材シリーズ。



2024年度の実績と2030年目標

■バイオサポ食材セットと美食百彩の累積品目数

2024年度 **345**品目

約54%達成！

2030目標 **644**品目

健康づくりに役立つ食の情報を発信

バイオサポ活動を組合員が理解し日々役に立てるために、各地域で学習会を開催。献立づくりの知識を伝える講座や、子育て支援講座、シニアの健康維持について伝える講座などもあります。



2024年度の実績と2030年目標

■バイオサポ講座の開催数

2024年度 **24**回

約30%達成！

2030目標 **80**回

■バイオサポ講座の参加人数

2024年度 **386**人

約24%達成！

2030目標 **1,600**人



* バイオサポ

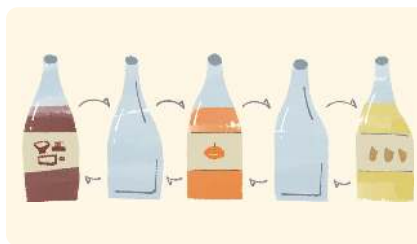
「バイオサポ」とは、生命を意味する「BIO」と「美」を掛け、生命力にあふれた健康な食生活をサポートしていく、という意味の造語。食の安全性のみならず、健康な体づくりのために欠かせない栄養バランスのよい「食べ方」についても情報を発信しています。

* 美食百彩

大人から子どもまで、あらゆる世代の健康な毎日の食卓をサポートする消費材シリーズです。

重要目標

地球の生態系を維持するため、海や陸の環境保全と気候危機対策に取り組みます。



生物多様性をおびやかす遺伝子操作を行なった食物を扱わないことを基本とし、その生産に反対します。また、生産・流通・消費・廃棄の各段階での環境配慮とともに、重点的に温室効果ガスの削減に取り組みます。

容器包装ごみを減らし資源を循環できる社会をつくる

繰り返し使えるリユースびんで環境負荷を減らす

家庭から出るごみの容積の約60%が容器や包材です。生活クラブでは、なるべくごみを出さず環境負荷を減らすために、調味料やジュースなどの容器を数種類のリユースびんに統一し、回収して再使用しています。繰り返し使うことで、エネルギー消費量やCO₂の排出量も減らすことができます。生活クラブではこうした取組みを「グリーンシステム※」と名付けて、組合員活動としてすすめています。

グリーンシステム
30th Reuse & Recycle

※Garbage Reduction for Ecology and Earth's Necessity（地球生態系のためのごみ減量）の頭文字GREENから名づけられています。

2024年度の実績と2030年目標

■調味料やジュースなどの容器に使われているR（あ〜る）びんの回収率

2024年度 **77.0**%

約96%達成！

2030目標 **80**%

Rびん…日本ガラスびん協会が、規格を統一したリユースびんと認証したびんのこと。

組合員みんなの力で、CO₂の排出量を削減！

リユースのRびんは35回、超軽量Rびんは50回、牛乳びんは50回繰り返し使うことが可能です。一度ごみとして捨てられたびんを新しい資源に作り替える「リサイクル」に比べ、そのまま使えるリユースびんはCO₂の排出量も少なくて済みます。このほか、プラスチックの牛乳キャップや、キャップを開封するときに取り除くサイドスコアー、ピッキング袋（消費材の配達時に使う袋）や注文書フィルムなど、再び資源化が可能なものを回収。それぞれごみ袋や、野菜用のピッキング袋などに再生しています。

2023年度は、グリーンシステムのRびんリユースを通じてCO₂の排出量を817トン削減。これは組合員がリユースびん入り消費材を使い、びんを返却した成果です。これからも身近な消費材を利用しながら、環境にやさしいグリーンシステムを続けていきます。

■CO₂排出量（2024年度） **778**トン削減

※ピッキング袋やキャップの回収による削減は含まれていません



* バイオサポ

「バイオサポ」とは、生命を意味する「BIO」と「美」を掛け、生命力にあふれた健康な食生活をサポートしていく、という意味の造語。食の安全性のみならず、健康な体づくりのために欠かせない栄養バランスのよい「食べ方」についても情報を発信しています。

* 美食百彩

大人から子どもまで、あらゆる世代の健康な毎日の食卓をサポートする消費材シリーズです。



重要目標 3 地球の生態系を維持するため、海や陸の環境保全と気候危機対策に取り組みます。

生活クラブグループのCO₂排出量を削減

CO₂排出を2050年までに限りなくゼロに

地球を過熱化する温室効果ガスの排出削減を、生活クラブグループ全体で取り組んでいます。2030年までにCO₂の排出量を45%削減（2013年比）、2050年には限りなくゼロにすることをめざしています。

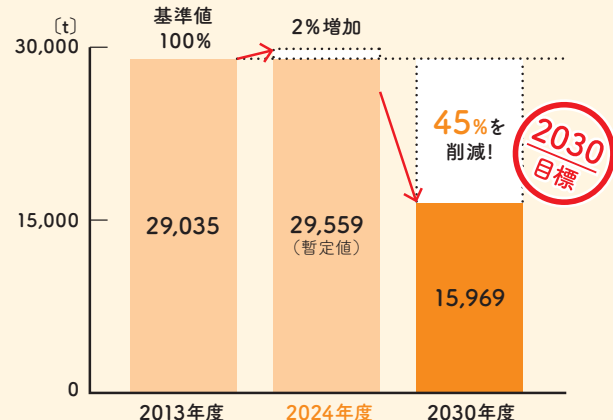


東京・葛飾センターに導入したEV

2024年度の実績と2030年目標

■生活クラブグループCO₂排出量の基準年に対して削減できた割合

※2024年度より基礎排出係数で算出をしているため、排出量が増加しています。再エネ電気の環境価値対応を行うことで大幅な削減を目指します。



生活クラブグループの各施設の削減努力の積み上げや、生活クラブでんきを利用することにより、CO₂排出量45%削減をめざします。

日々の暮らしの選択で環境や生態系を守る

合成洗剤は扱いません

せっけんの利用をすすめ、合成界面活性剤でつくられる合成洗剤は扱いません。2022年7月からは、「洗濯用粒状せっけん」など3品目の原料の脂肪酸の一部をパーム油由来のものから廃食用油由来のものに変更し、より環境と人権に配慮した原料規格に置き換えました。さらに包材のプラ削減にも取り組んでいます。



【生活クラブ×日本大学芸術学部】産学連携プロジェクト

生活クラブは2023年に日本大学芸術学部と連携。学生が産地を訪れて取材し、水を守るための取組みや、環境にやさしいせっけんの魅力などについて、独自の表現で発信しました。

くわしい内容はWEBで紹介しています



2024年度の実績と2030年目標

■主要なせっけん類(洗濯用・台所用・固型せっけん)の取組み人数

41,337人
2030目標 100,000人

約41%達成!

※生活クラブ北海道・関西を除く。 ※2024年7月度実績。

■主要なせっけん類の取組み人員率

15.8%
2030目標 25%

約63%達成!

遺伝子操作を行なった食物は扱いません

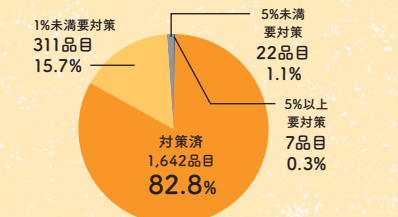
生活クラブでは「疑わしいものは使わない」という考えから、遺伝子組み換え作物*・食品は取り扱わないことを基本に、その生産にも反対しています。提携生産者と協力し食品の原材料、畜産物の飼料からも遺伝子組み換え作物を取り除いています。同様に、ゲノム編集*された原材料も認めません。

■Non-GM飼料*の使用量

2023年度実績 37,607t

※遺伝子組み換えの混入を防ぐために分別した飼料の使用量。

■GM対策済消費材の割合



* 遺伝子組み換え作物(GM作物/GMO)
ある特定の性質をつくるために、微生物などの生物の遺伝子の一部を切り取って、自身の遺伝子に組み込む操作がおこなわれた作物のことです。(GMO:genetically modified organism)

* ゲノム編集食品
特定の遺伝子を壊す「ノックアウト」と、特定の遺伝子を外部から挿入する「ノックイン」の2種類があります。

重要目標

4

社会の存続をおびやかす危機への対策をすすめ、暮らしと未来を守ります。



気候や災害などの危機への対策をすすめ、持続的な生産と消費を確かなものとし、人々の暮らしを守ります。

気候危機にも適応し、持続可能な生産への取組みをすすめる

変わりゆく気候に適した農産物の品種を探る

気候危機による影響などから、これまでと同じ方法で農作物をつくり続けることが難しくなっています。生活クラブでは夏の高温や鳥インフルエンザの脅威などに対応し、地域特性にあった鶏の育て方を模索。開放型鶏舎を基本としつつ、一部の鶏卵農場でセミウインドレス鶏舎も採用しています。また、柿や梅などを生産する奈良県の(有)王隠堂農園でも、生育に適した土地と品種の検討を始めました。



一部で採用するセミウインドレス鶏舎。強制換気により夏場の鶏のへい死リスクを防ぐ効果があるとされ、自然の風や光も入れることができます



人手不足と高齢化による課題の解決に向け、(有)王隠堂農園で行なう、傾斜地でのスマート農機の実証実験



(有)王隠堂農園では、柿の木の定点観測を行ない、気温などの変化が及ぼす影響を調査

自治体と連携して災害に備える

支援体制を整えるため自治体と協定を締結

生活クラブは、提携生産者が多くつながりも深い長野県塩尻市、山形県酒田市・遊佐町などの自治体と、災害などに備えて連携。支援体制を整えています。そのうち長野県塩尻市とは、防災用飲料水の取組みのため、水源利用で提携したことをきっかけに包括連携に関する協定を締結。災害時の生活物資の供給などをお互いに支援できるようにしました。

山形県庄内地域の豪雨災害で復興支援活動を実施

2024年7月25～26日の山形県庄内地域の豪雨災害により、生活クラブの消費材の産地である庄内地域(酒田市・遊佐町)は大きな被害を受けました。生活クラブでは、包括連携協定に基づき、8月上旬より災害支援ボランティアを派遣。組合員や職員など延べ256名が参加しました。行政や生産者と協議を重ね、がれきや土砂の撤去、田んぼに流入した流木の撤去のほか、地元の災害ボランティアセンターと連携し民家の泥のかきだしなども行ないました。また、組合員からカンパ金を募り、酒田市、遊佐町、JA庄内みどり、遊佐町共同開発米部会に贈呈しました。



原発のない社会をめざし、再生可能エネルギーの生産と普及に取り組めます。



生活クラブ
でんき

省エネルギーと再生可能エネルギーの利用をすすめる

自分たちが使う電気を自分たちでつくる

生活クラブではサステナブルな未来をつくるため、使う電気を減らすと同時に、原発や化石燃料に頼らない社会をめざしています。そんな社会を実現するため、再生可能エネルギーを中心とした、「生活クラブでんき」の共同購入を2016年にスタート。全国約71ヶ所ある発電所の電気を、各地の生活クラブや提携生産者が出資して立ち上げた(株)生活クラブエナジーが仕入れ・需給調整を行ない、組合員の家庭や消費材をつくる工場などに届けています。

「生活クラブでんき」
ならではのシステム

利益還元割戻制度

「生活クラブでんき」を継続して利用し剰余が生まれた場合は、利用者に割戻として返すことになりました。剰余が見込まれる場合に、使用された電気料金に応じて割戻による還元を翌年度に行ないます。

2024年度の実績と2030年目標

■「生活クラブでんき」契約数(低圧)

2024年度

18,895件

約32%達成!

2030
目標

59,666件

再生可能エネルギーの生産と普及がもたらす信頼と共生

2025年で稼働13年目を迎える、秋田県にかほ市の生活クラブ風車「夢風」。生活クラブ首都圏4単協の組合員が中心になって建設した風車です。この約10年、「夢風」は「生活クラブでんき」へ再生可能エネルギー(以下、再エネ)の電気を安定的に届けてきました。夢風が推進したのは電気の供給だけではなく、建設の過程で「単に電気をつくる・つかう関係では、原発のように都市だけが恩恵をうけることになる」との気づきを得て、地元産品の共同購入、にかほ市や地元の芹田自治会との交流をすすめてきました。「夢風」があることで産地も消費地も豊かになる、そんな再エネ普及のあり方を実践してきました。2025年5月に開催した「夢風10周年を祝う会」では、芹田自治会から永年にわたる交流を通じた絆づくりへの「感謝状」をいただきました。2025年3月にはにかほ市に2機目の風車「千颯」が稼働。重要目標5の「再生可能エネルギーの生産と普及に取り組む」とは、単に再エネを増やすのではなく、再エネが増えることによって地域社会も豊かになる、そんなことも目指しています。



2025年3月に稼働した風車「千颯」

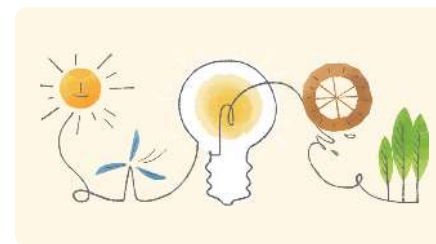


「夢風」のある地元の芹田自治会から送られた感謝状



タラメン醤油味 鯖しよつる 純米大吟醸 夢風
共同購入している地元の産品(一部)

再生可能エネルギーによる電力をつくり、連帯と共同購入によって選択する人や事業者を増やし、原発が必要ない社会をつくれます。



生活クラブでんきの発電所を増やす

新たな発電所の建設と事業者との提携

生活クラブでんきは、全国にある再生可能エネルギー発電所から電力の供給を受けています。電力の“素”となっているのは、太陽光や風力、小水力、バイオマスなど、環境負荷が少なく、横のネットワークをつくりやすい分散型のエネルギー源です。2030年までに再生可能エネルギー100%にすることを目標に、新たな発電所の建設や想いをともにする事業者との提携をすすめています。



生活クラブ風車「夢風」(秋田県)



庄内・遊佐太陽光発電所(山形県)



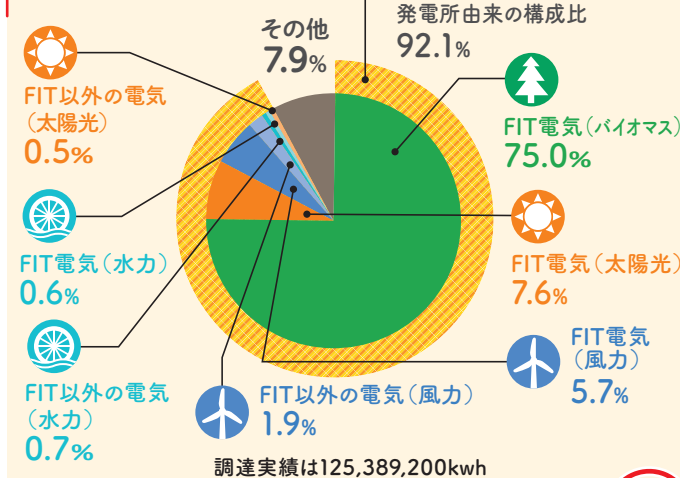
阿寒バイオガス発電所(北海道)



生活クラブソーラー 多摩南発電所(東京都)

2024年度の実績と2030年目標

■調達電源比率(2024年度)



生活クラブでんきは2030年度目標として
再生可能エネルギー100%をめざします

2030
目標

生活クラブでんきの再生可能エネルギー発電所

太陽光 風力 小水力 バイオマス

71ヶ所

発電所の数は2024年4月末現在



野辺山営農型太陽光発電(長野県)

長野県の八ヶ岳山麓にある野辺山に、営農型の太陽光発電所を建設。野辺山営農ソーラー株式会社が始める事業に生活クラブ連合会が参画しています

2022年
稼働

※バイオマスは、(株)生活クラブエナジーが提携する事業者から購入して供給しています。
※各発電所のアイコンは都道府県ごとに表示。



2023年
稼働
さがみこファーム
ソーラーシェアリング発電所
「SO・LA・MI」

東京、神奈川の生活クラブで寄付を募り(株)さがみこファームとともに建設。竣工式では組合員も一緒にワイン用のぶどうを植樹しました

※上記、調達電源の数値は、生活クラブ事業所および関連施設(高圧)と生活クラブ組合員(低圧)への供給実績に基づき算出しています。最新の調達電源比率は(株)生活クラブエナジーの公式サイトで確認できます。※(株)生活クラブエナジーがこの電気を調達する費用の一部は、(株)生活クラブエナジー以外の利用者を含め、電気をご利用の皆様から負担された再生可能エネルギーに関する賦課金によって賄われており、この電気のCO₂排出量については、火力発電なども含めた全国平均のCO₂排出量を持った電気として扱われます。※その他インバランス等には、旧一般電気事業者からインバランス(補給)供給を受けた電気と他社から調達している電気の一部で発電所が特定できないものについては「その他」の取扱いとしています。2024年度のCO₂排出係数(基礎排出係数)は0.418です。(単位:kg-CO₂/kWh)

6 誰もが個性を活かしながら、安心して生活を営める地域と社会をつくりま



生まれてから生涯を終えるまで安心して生活を営むため、地域に必要な事業および市民活動の環境整備と資源創出をすすめます。

生涯を通じて地域の中で安心して生きられる社会をつくる

■さまざまな人を支える地域活動と事業

あらゆる世代や状況下の人たちが元気で生きがいを持ち、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるように、居場所づくりや役割づくりをすすめています。



居場所に取り組む地域(自治体※)数
139
2023年度実績

大阪府枚方(ひらかた)市の子育て広場「ひらひら」を訪れた親子

■介護予防への取り組みと健康長寿の活動

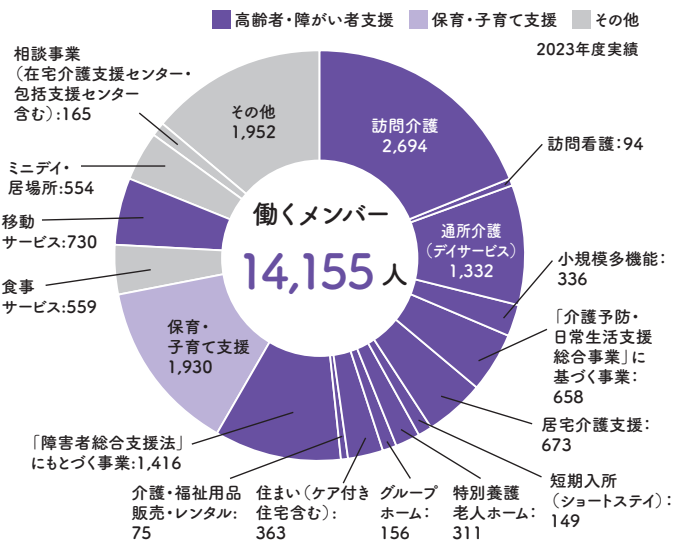
健康づくりの支援として、手軽な運動方法や生活習慣の改善につながる情報をWEBサイトで定期的に発信。また「美食百彩」消費材と連動した、ピオサポアクティブシニア講座*の開催を支援しています。



介護予防・健康維持の活動に取り組む地域(自治体※)数
33
2023年度実績

「ピオサポ アクティブシニア(美食百彩)講座「体操」編」に集まった参加者たち(生活クラブ京都エル・コップ)

■生活クラブグループの福祉事業で働くメンバー



■防災減災の活動と災害時の地域のたすけあい

防災、減災に対する意識を高め、常日頃から備えられるよう、防災ワークショップを開催。また、こくみん共済coop(全労済)が主催する防災セミナーと連携した、ライフプラン講座を共同開催しています。



ライフプラン講座防災ワークショップの開催数
13講座

参加人数
178人
2024年度実績

ライフプラン講座の様子

※自治体とは、基礎自治体である「市区町村」。

7 貧困と孤立を見過ごさず、自立に向けて寄り添い、支え合い、多様な居場所と働き方をつくりま



現代社会が生み出す貧困に目を向け、広がる格差と社会的弱者を孤立させる社会構造の変革をめざします。地域の連携により、セーフティーネットで守られ、価値のある存在として互いにつながりあえる社会をつくりま

誰も取り残すことなく、たすけあえるしくみをつくる

■社会的に不利な状況にある方へのサービスとケア

社会的に不利な状況にある人々が、衣食住に関するサービスやケアを身近に利用できるしくみをつくっています。その一環として、身近な困りごとから生活の維持に関わることなど様々な相談事業を行なっています。



相談窓口に取り組む地域(自治体※)数
7
2023年度実績

「認定NPO法人コミュニティケア街ねっと」(千葉県)での家計相談の様子

■食の再配分と食育の推進

消費材をつくる生産者が集まる「生活クラブ親生会」と連携し、生活クラブフードバンクの取組みを推進しています。食品の提供先はこども食堂、居場所運営団体など、さまざまに広がっています。



提供先団体数
7都県 **29**団体
生産者数
26団体
2023年度実績

組合員がボランティアで、食材の仕分け作業に取り組んでいます(フードバンク 神奈川)

■誰もが役割のある場づくり

社会的・心理的な性別、年齢、障がいなどにかかわらず、互いに尊重し働きがいを感じられる仕事や職場を広げま



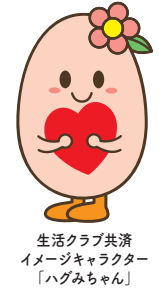
就労支援に取り組む単協数
6単協
2023年度実績

生活クラブやまがたによる「就労支援」

■「生活クラブ共済ハグくみ」

消費材と同じように生活クラブの組合員が、自分たちで欲しいと思う保障を自分たちでつくりました。保障だけでなく、家事介護支援や保育支援や移動サービスなど地域の人たちで直接的にたすけあうケアサービスの展開も行なっています。

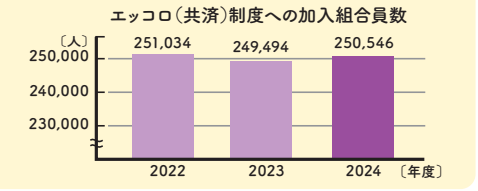
加入者数
49,458人
(2025年3月末時点)



生活クラブ共済イメージキャラクター「ハグみちゃん」

組合員どうしのたすけあい「エコロ(共済)制度」

生活クラブ独自のたすけあいのしくみです。制度内容は各地の生活クラブによって異なりますが、組合員どうしが「お互いさま」の気持ちでたすけあうという趣旨は同じです。現在、14都道府県の生活クラブで実施されています。



※自治体とは、基礎自治体である「市区町村」。

非戦と共生の立場を貫き、 平和で公正な社会を めざします。



戦争のない世界をめざし、世界中の市民や地域との多様な交流をすすめながら、社会的・経済的な発言力を発揮します。

おおぜいの声を集めみんなが生きやすい社会に

「食料・農業・農村基本計画」策定に伴う意見交換会を実施

これからの日本の農業政策の方向性をしめす「食料・農業・農村基本法」が2024年6月、25年ぶりに改正されました。これを受け、生活クラブ連合会をはじめ全国各地の6つの生協※は、2025年3月、「食料・農業・農村基本計画」策定に伴う意見交換会を衆議院第二議員会館で開催しました。日本の農業を守るにはどうしたらよいか、組合員や生産者たちの意見を農林水産省や国会議員に直接訴えるのが目的です。意見交換会に先立ち、6生協は共同で策定した提言を2月に農林水産省に提出。各生協の組合員や生産者、農林水産省職員や国会議員など、オンライン参加を含め約270人が参加し、提言をもとに意見を交わしました。



6つの生協の組合員と生産者たちが、今後の農業の在り方について農林水産省や国会議員たちと意見を交わしました

※生活クラブ事業連合生活協同組合連合会、東都生活協同組合、生活協同組合連合会、コープ自然派事業連合、生活協同組合連合会アイチョイス、グリーンコープ生活協同組合連合会、パルシステム生活協同組合連合会

国、世代、障がいなどの有無を超えてつながる

海外の市民と交流し相互理解を深める

生活クラブ連合会と台湾の主婦連盟生協、韓国の幸福中心生協連合会は、1999年に姉妹提携を結んで以来、お互いの活動を学び合う交流「アジア姉妹会議」を続けています。台湾、韓国、日本を毎年順番に訪れ、組合員交流や生産者見学、施設の見学などで各々の活動への理解を深めてきました。2024年は25周年に当たり、生活クラブ連合会で学習会を開催。各地の生活クラブから、会場とオンラインの合計で41人の参加がありました。2025年には、アジア姉妹会議25周年を記念するイベントを台湾で開催する予定です。



「アジア姉妹会議」25周年記念の学習会に参加したみなさん

情報をより多くの人に届ける

生活クラブが発信する情報がより多くの人に届くように、連合会の公式WEBサイトでは多言語化をすすめ、複数言語でも閲覧できるよう対応しています。また、生活クラブのインターネット注文「eくらぶ」では、視覚に障がいのある方向けに音声読み上げソフトに対応した「eくらぶ文字だけサイト」も開始。注文操作を容易にできるようにしています。サイトは開発側と利用する側の双方で、視覚に障がいのある方に協力いただきました。



生活クラブ連合会公式WEBサイト＜英語＞

eくらぶ文字だけサイト

ジェンダー平等と 多様な働き方を 実現します。



女性のエンパワーメントを強め、誰もが働きやすい職場づくりや社会参加をすすめます。

女性の社会的な発言や参画をすすめます

生活クラブに参加する人を増やし、 地域に必要な機能や働く場をつくる

ジェンダー平等と女性のエンパワーメントが世界に大きな活力をもたらすとの考えが、国際的に浸透してきています。女性が中心である生活クラブの組合員を増やし、女性たちの声や力を大きくしていきます。また、「ワーカーズ・コレクティブ」など、地域に必要な機能や働き方、働く場を生み出していきます。

■生活クラブの仲間を増やし、声と力を大きくしていきます

組合員数
2024年度末 **420,863人** **約84%達成!**
2030
目標 **50万人**



4都県で展開する、生活クラブの消費材を売るお店「デポー」。生活クラブの組合員たちが主体となり共同経営を行なう「ワーカーズ・コレクティブ」のスタイルをとっています

多様性を尊重する、働きやすい職場の実現

性別、年齢、障がいの有無、国籍などに 関わらず、誰もが働きやすい職場づくり

性別や年齢、ライフスタイル、価値観などにかかわらず個を尊重し、認めあい、良いところを活かす職場づくりをすすめます。ダイバーシティへの理解の醸成や、仕事と育児・介護の両立支援、ICTを活用した多様な働き方を実現していきます。

■連合会での女性職員の採用、管理職への登用をさらにすすめます

女性職員割合
2030
目標 **50%**
女性管理職割合
2030
目標 **35%**

日本の企業における役員・管理職に占める女性の割合

就業者に占める女性の割合は、2023年は45.1%。しかし管理的職業従事者に占める女性の割合は、2023年は13.2%です。近年着実に上昇しているものの、諸外国と比べると依然として際立って低い水準となっています。（※出典・厚生労働省雇用環境・均等局雇用機会均等課「雇用の分野における女性活躍推進等に係る現状及び課題」）



生活クラブでは性別や年齢、障がいの有無などにかかわらず、すべての職員が働きやすい職場をめざし取り組んでいます

10 重要目標 他団体や行政と連携し、新たな環境保全活動に取り組みます。



他団体や行政とのパートナーシップを構築し、海洋プラスチック汚染対策やローカルSDGs*の取組みを推進します。

森と暮らしをつなぐ対話の場

「生活クラブ森林フォーラム」開催

日本の国土の6割は森林であり、生活クラブの提携産地の地域の持続性を考える上で、森林の保全や林業の抱える問題への取組みは大きな課題です。そこで、日本の森林・林業の課題や先進事例を生活クラブ提携産地の関係者と組合員で学びネットワークづくりを行う機会として、「生活クラブ森林フォーラム」を2024年3月に実施。総勢241名の参加者が森林について学び、考えました。



森林や木材にかかわる各地の行政、生産者、関係業者、組合員が集まり、話しあいました

地域の人々と生産者とすすめる持続可能な社会づくり

紀伊半島地域での林業との連携

生活クラブの提携産地の一つである紀伊半島は、日本でも有数の森林・林業地域。ローカルSDGs推進の大きな柱として、提携生産者とともに地域の林業関係者との連携をすすめています。まずは現状を知ることの大切さから、提携産地への援農・農業体験を行う「夢都里路（ゆとりろ）くらぶ」や各地の組合員活動を通じて森林を体験し林業の現状を知るための視察ツアーを実施し、奈良県吉野地域へ多くの組合員が訪れています。

適切な森林資源の活用が森林の保全につながる観点から、生活クラブ関連施設や地域の生活クラブの住宅事業等への吉野材の活用も推進。また、生活クラブの青果生産者との地域内農林連携の取組みとして、土の上に林業残渣のチップと菌をまくことで化学肥料を使わず有機



林業残渣チップを使った有機いちごの栽培試験を実施



組合員が実際に山の中を歩き林業について学んだ視察ツアー

的な栽培を可能とする、新たな農法の試験にも取り組んでいます。これらの取組みを通じて、森林と山の問題を産地とともに考える関係性を構築しています。

森を活かす、地域をつなぐものづくり

生活クラブと提携生産者の酒井産業株式会社（長野県塩尻市）は、国産木材を活用した生活用品づくりを通じて、森林資源の循環利用と地域文化の継承に取り組んでいます。ひのき箸や木製食器は、手仕事と機械化を融合させた技術で生産されています。木育や漆の植林、地域との協働による環境保全にも力を入れています。



酒井産業（株）や生活クラブにゆかりのある人たちが福島県いわき市の里山で行なう漆の植林活動に、組合員も参加しました



11 重要目標 情報開示と自主管理を基本とし、自ら考え、決め、実行します。



組合員主権に基づく組織運営を基軸として、SDGs達成に主体的に取り組みます。SDGsを超える取組方針についても、自主的な目標を定め、実行していきます。

独自の基準による管理と点検をすすめる

生活クラブの自主基準

健康で安心して暮らせる社会をめざし、生活クラブでは「消費材10原則*」に基づく「自主基準」を設けています。その範囲は畜産・農業・漁業・加工食品・生活用品・容器包装、エネルギー、そしてすべての食品消費材に共通する放射能の分野にわたります。自主基準は消費材をつくる際を守るべき規格と、未来のあるべき姿に消費材を導くためのガイドラインで構成されています。



生活クラブならではの消費材Step Up点検

組合員が消費材の生産現場に赴いて、製造工程などを確認する活動です。対面を基本としていますが、近年はオンラインも活用しています。組合員の率直な質問によって生産者は製造面の見直しや新たな発見をするなど、組合員と生産者の意見をもとに改良を重ねることで、消費材はブラッシュアップされています。



「真あじ開き」の生産者の元を訪れ、対話しながら点検を行なった生活クラブ神奈川の組合員

2024年度の実績と2030年目標

消費材の自主基準登録数（青果物除く）

2024年度 **2,561**品目

2030目標 **2,600**品目

約98%達成！

2024年度の実績と2030年目標

消費材Step Up点検

累積実施数 1,342件

1997年～2025年3月末現在

2030目標 1,570件

約85%達成！

放射能検査活動

2011年の東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生してから、放射能による食品の汚染状況を全体的に把握するために検査を開始。徐々に検査装置の数を増強し、自主基準値をより厳しい数値に更新してきました。また、検査実績をもとにリスクが少ないと分かった品目の検査を減らし、検査すべき品目の検査頻度を増やしています。



ゲルマニウム半導体検出器



放射能検査数

2024年度実績 **7,035**件

累積実施数 **165,584**件

2011年～2025年5月末現在

* ローカルSDGs

それぞれの地域が持つ再生可能なさまざまな資源（自然、物質、人材、資金等）を循環させて有効に利用し、地域と地域が補完しあうことで、お互いの活力を最大に生かし、サステナブルな自立・分散型の社会を形成するという構想。

* 消費材10原則

経済と社会に関する5つの原則と、環境に関する3つの原則、そして共生と自治に関する2つの原則で構成されています。消費材や取組みの一つひとつに反映され、「健康で安心な社会」の実現の基礎となっています。

重要目標11は、組合員活動についてまとめた、SDGsにとどまらない生活クラブ独自の目標です。

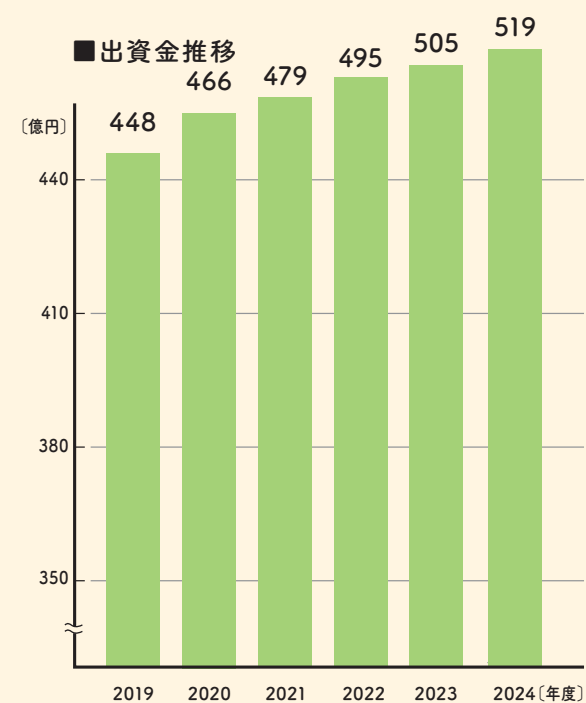
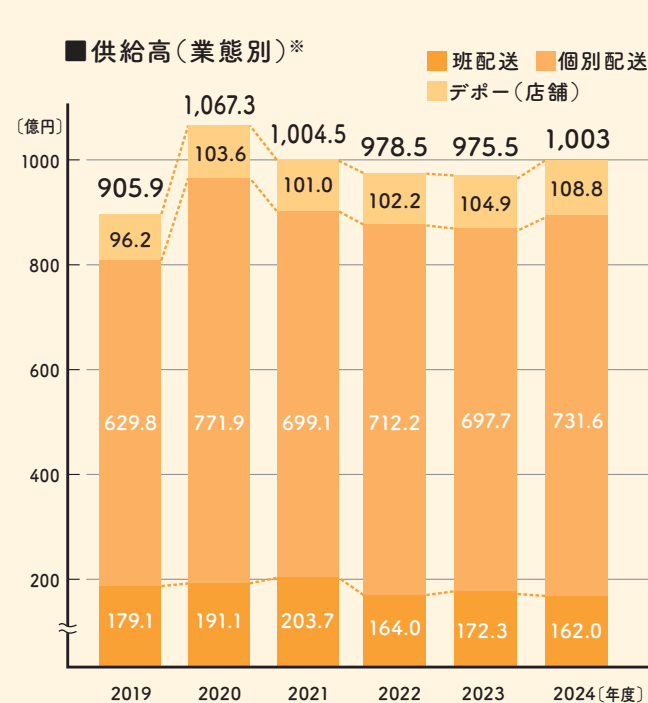
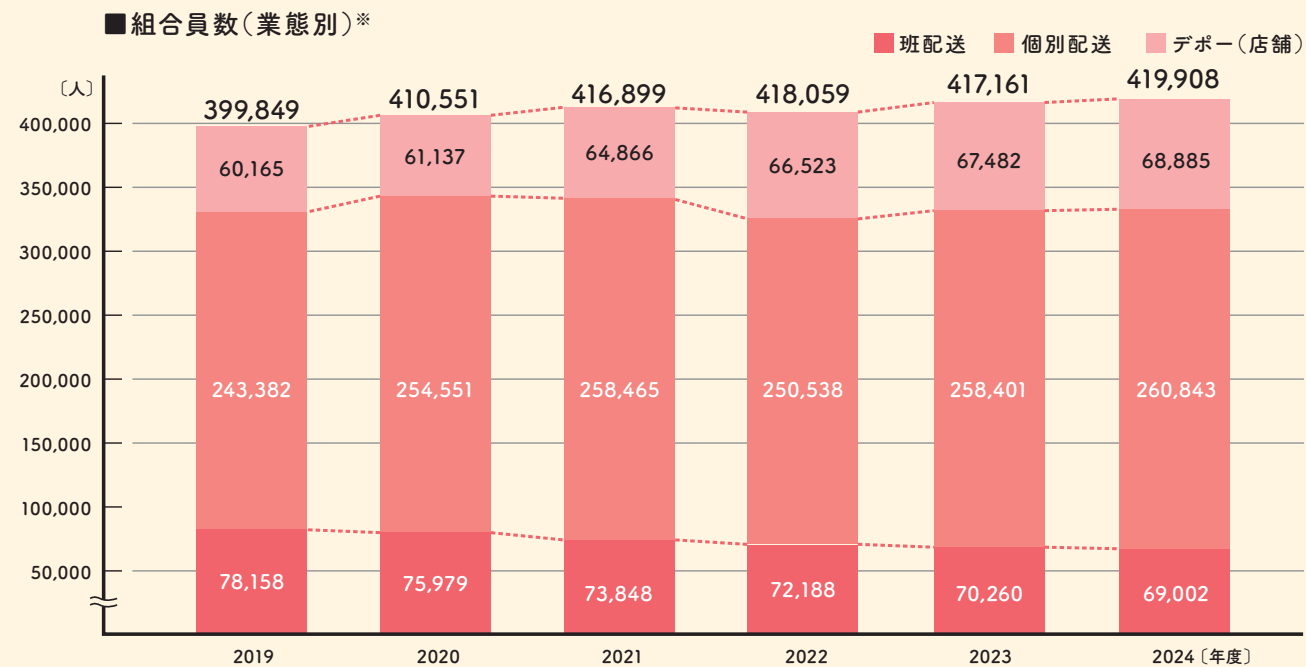


DATA 数字で見る動向と推移

生活クラブグループの全体像が見えるデータをまとめました。

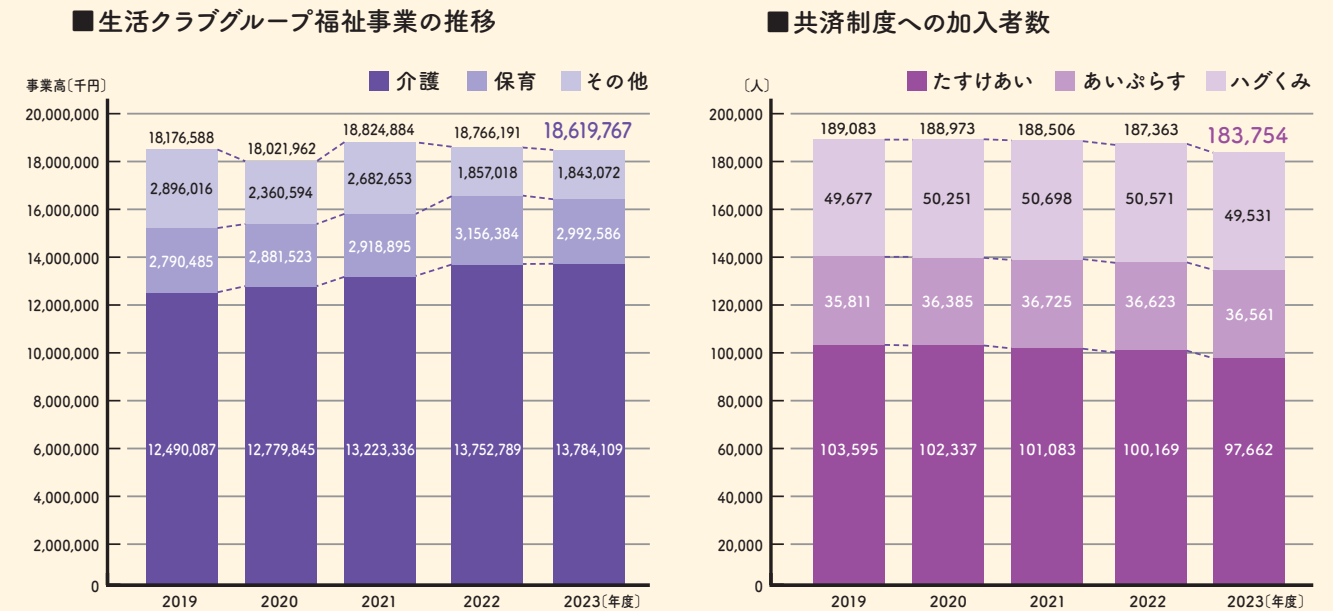
2024年度の共同購入の利用者数・事業高・出資金の推移と、2023年度の福祉事業の事業高、共済制度の加入者数推移を掲載しています。

〔 DATA 1 数字で見る共同購入事業の動向と推移 〕



*各年度の合計値には、班配送・個別配送・デポー(店舗)以外の組合員数、供給高も含まれています。

〔 DATA 2 2023年度生活クラブグループの福祉事業と共済制度のひろがり 〕



生活クラブ組合員が注文した食材を 食の支援が必要な人に届ける「おふくわけ」

長引く経済の低迷などにより、毎日の食事を満足にとることができず困っている人が増えています。生活クラブは組合員と生産者とともに、フードバンクの活動を地域ごとに継続。さらに新たな支援「おふくわけ」をスタートしました。

一般的なフードバンクの活動では、農家の規格外品や食品製造企業の未利用品などの食品ロスが有効活用されています。一方、生活クラブでは、組合員の注文にもとづき生産者が計画を立てて生産し、組合員が利用する「予約共同購入」のため、食品ロスはほとんど発生しません。そこで「おふくわけ」では、組合員が注文することでフードバンクの支援に参加できるようにしました。この取組みによって、地域内での支援の輪をさらに広がっていきます。



2024年度 生活クラブの活動を 振り返る

庄内ローカルSDGs 視察交流会

生活クラブと提携産地・山形県庄内地域を組合員が視察。自然エネルギーを活用した地域事業の広がりなどを確認しました



日藝×生活クラブ 産学連携プロジェクト

日本大学芸術学部(日藝)の学生たちが生活クラブの提携産地を訪れて取材し、広報物などをつくり発信



ゆとりろ 夢都里路くらぶ シークワサー収穫応援

提携産地に組合員が出向き、収穫や草刈りなどの作業に参加する「夢都里路くらぶ」の企画で、組合員が沖縄県でシークワサーを収穫。農家の高齢化がすすむ中、産地と消費材をつくり続ける力となっています



生活クラブたまご新鶏舎

「鶏卵ビジョンフード産地推進会議」で組合員が(株)生活クラブたまごの埼玉県の農場を視察。老朽化のためリニューアルした鶏舎を訪れ、飼養羽数を増やし高温対策した設備を確認しました



水産全体交流会

「持続可能な水産物の生産と消費」をテーマに、組合員と消費材の魚介・魚介加工品の提携生産者が交流。消費材と産地への理解を深めました



能登半島地震 復興支援カンパ

組合員や提携生産者などから8,543万3,449円のカンパ金を集め、被災地域の提携生産者への見舞金などに充てました



一次産業の持続可能性のために力を注ぎます



村上 彰一 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 会長

2024年度は、生活クラブのサステイナブルな活動が着実に根付いていることを実感する一年となりました。加工用トマトの計画的労働参加とグリーンシステムがそれぞれ30周年を迎え、組合員と生産者がともに築いてきた協同の仕組みが、今も力強く機能していることを改めて確認できました。

「2030行動宣言」に掲げた11の重要目標に向けては、畜産飼料の自給率向上、再生可能エネルギーの拡大、国産鶏種の取り組み、地域福祉の充実など、複数の分野で着実に成果を挙げています。これまで、食・エネルギー・福祉を自給・循環させる持続可能な取り組みを

地道に続けてきた成果が、確実に形になりつつあります。

一方、昨年からのお米の不安定な状況にも言えるように、食料の供給や価格形成を全て市場経済に委ねてしまうことの危険性は生活クラブがずっと提起してきたことです。食料の危機が可視化された中、国民全体で食料の確保、一次産業の持続可能性のために努力しなければなりません。生活クラブは提携産地との関係性を今まで以上に深め、農地の維持拡大、そして担い手の確保、新たな産地形成にいっそう力を注いでいく必要があります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsとは?

世界では、格差と貧困、人口増加、生態系を維持できないほどの大量生産と消費、気候危機など、さまざまな問題が立ちはだかっています。SDGs(エス・ディー・ジーズ)は、これらの問題を2030年までに解決することをめざした、世界共通の目標です。先進国も途上国も区別なく「誰ひとり取り残さない」という理念のもと、一人ひとりが自分ごととして捉え、行動することが求められています。



SDGsのいまを考えるレポート

生活クラブは、SDGsの理念に先んじた、かつSDGsにとどまらない独自の実践をともなった活動を行ってきました。これをふまえ、「生活クラブ2030行動宣言」ではさらに推進すべき活動や、より先駆的な取り組みを掲げています。ここでは現在関心が高まってきている、SDGsにかかわる新たな考え方を紹介します。

人から考える持続可能性「ビジネスと人権」

近年、「ビジネスと人権」が国際的な課題として注目されています。企業は、製品やサービスの提供に関わるすべての過程で、人権を尊重する責任があります。強制労働や児童労働、差別的な待遇などのリスクは、サプライチェーンの中で見えにくい形で存在することもあります。

国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」では、企業に対し人権尊重の方針策定、リスクの特定と予防、被害への救済措置などが求められています。持続可能な社会の実現には、環境だけでなく人権への配慮が不可欠です。

生活クラブのしくみについて

生活クラブは生協です。営利を第一の目的とする一般の企業とは異なり、
組合員の「出資」「利用」「運営」によって成り立っています。

みんなで「出資」

組合員は、自分たちの事業や活動を行なうため、お金(出資金)を出しあいます。生協の事業はこの出資金により運営されています。なお、生協を脱退される際には、出資金は返還されます。

みんなで「利用」

組合員は品物を買ったり、さまざまなサービスを受けたりします。

みんなで「運営」

「こんなものがあたらいい」など、取扱う品物やサービス、活動について、組合員がさまざまな意見を出しあい、運営します。

